

はあとふる

Heartful 2012.1

地域の皆さまに、心(Warm Heart)と知識(Cool Head)と技術(Beautiful Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌



■特集

学ぶことを風土にしたい 「はあとふる学会」の20年

インタビュー

次期学会長・副学会長の思い

■続はあとふるグループメンバーの災害支援レポート

東日本大震災の被災地に対する
リハビリテーション支援を経験して

電子カルテ導入 — 島田病院 —

トピックス

高度体組成計導入のお知らせ

“Cafe” Infection Control

蟪蛄春秋を識らず、伊虫あに朱陽の節を知らんや

中国浄土教の開祖とされる南北朝時代の高僧「曇鸞(どんらん)大師」の言葉です。「蟪蛄」とは蝉(ヒグラシ)、「伊虫」はこの虫で、「朱陽の節」とは夏のことです。つまり「春や秋を知らないこの虫が、どうして夏を知ることができるだろうか」と問いかけています。「セミは夏に生まれ夏の間に短い一生を終えます。夏しか知らないセミは、実は、夏のことすら分かってはいないのだ」ということになります。ひとつの部分に集中しすぎると、周囲のことが見えなくなるし、結局追求しているものさえ分からなくなってしまう危険性があることを教えてくれる言葉だと思います。

平成24年度、はあとふるグループは以下のことを意識する一年にしていきます。

- ・ 専門性を追求しながらも、同時に、複眼的な視点も忘れないこと
- ・ 他者の意見を取り入れる事ができる「柔らかい頭」を育むこと
- ・ 個々の対象者のケアの全体像を常に把握する人や体制を作ること

私たちひとり一人が、心と知識と技術を磨き、グループとして力を発揮できるよう、今年も活動を続けます。



理事長 島田永和



島田病院、八尾はあとふる病院は「病院機能評価認定病院」です。

はあとふるグループ

医療法人(財団) 永広会
社会福祉法人 はあとふる

「学ぶことを風土にしたい」という思いから20年 “こうでありたい人間像”を目指し、 はあとふるグループは日々努力を重ねています。

「学ぶことを風土にしたい」という思いをこめて「学問元年」というテーマで職員の取り組みを発表する学会が平成4年にスタートしました。それから、毎年開催し、名称も「島田病院学術発表会」から「はあと&はんすアカデミー」へ変化してきました。スタートから20年が経過した平成23年度は、「はあとふる学会」に名称を変更して、開催しました。

はあとふる学会に名称を変更しました

平成23年度で20回目を迎えるグループ内の学会ですが、これまでの「はあと&はんすアカデミー」という名称から、グループの使命が改訂されたことにより、呼び方が変わりました。新しい使命は「私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを、Warm Heart(心)、Cool Head(知識、判断)、Beautiful Hands(技術)で支援します。」です。この改訂で、Heart(心)とHands(技術)だけでなく、Cool Head(知識、判断)が加わっています。患者さん(ご利用者)の情報を過不足なく受け止めるのも、それを統合し、経験や知識と照らし合わせ、仲間の意見も取り入れてベストのケアを創造していくのも、このHeadの働きです。Heart(心)がなければ、血の通ったサービスにはなりませんし、つたないHands(技術)では、良いケアとは言えません。情報を収集し、統合し、総合判断を行って方針を立てていく中で、頭の働きを忘れてはならないと考え、Headを追加し、その大切さを強調しています。この改訂により、学会名も「はあと&はんすアカデミー」では、整合しなくなったため、新しく「はあとふる学会」となりました。

はあとふる学会 開催報告

平成23年11月13日(日)「LICはびきの」で開催されました。当日は、はあとふるグループの職員269名が参加しました。

発表は、口演発表22題、ポスター発表15題、特別演題2題が行われました。

口演発表は、4つのセッションに分かれて行われ、それぞれにテーマを設けました。第一セッションでは、Digital(電子化)&Learning(学習)、第二セッションでは、Challenge(挑戦)、第三セッションでは、Pride(誇り)、第4セッションでは、Life(人生)です。発表者は、スライドを使って制限時間6分という短い時間で発表しなければならないので、少し緊張した面持ちの方も多かったようです。しかし、意外な視点からの研究や患者さんやご利用者の立場を十分に理解した上での提言、効率に寄与する新しい取り組みなど、これまでの取り組み内容や、その成果をしっかりと伝えることができたと思います。発表後の質疑応答の時間では、質問や意見などが多くあり、時間が足りないと感じるほど、活発な意見交換がなされました。

ポスターセッションでは、様々な工夫を凝らしたポスター掲示と発表者による1分間のスピーチを行いました。参加した職員の、立ち止まってポスターをじっくりと読みこむ姿や、質問する姿からは、学ぶことへの意識の高さを感じることができました。

最後に2つの特別演題の発表がありました。「はあとふるグループにおける交通事故発生状況と事故撲滅を目指して」では、交通事故の発生状況の報告と、交通事故撲滅に向けた取り組みが発表されました。「看護職として九死に一生をえた体験



を通して伝えたいこと」では、看護師の実体験をもとにした内容でした。看護師が患者側の立場になって気づいたことの発表であり、ヘルスケアサービスにかかわる私たちへのメッセージがたくさんつまった内容でした。職場復帰への強い思いと、その過程に感動して涙を流す職員もいたほどです。

学会終了後は、優秀賞の発表です。理事長賞は、「へこたれてなんかいられない!〜目指そう☆南河内〜一番の訪問看護ステーション〜」訪問看護ステーション ハートパークはびきの杉田佳子さんが受賞しました。(その他の賞は学会結果表をご覧ください)受賞者の名前が呼ばれる度に、歓声があがり、チームで取り組んできたことを感じました。

第20回はあとふる学会は、記念大会にふさわしく活発な意見交換もなされ、有意義な一日になったと思います。今後も、「学ぶこと」を職場風土として定着していけるように、また、はあとふるグループの使命を全うするために、進化し続けていきたいと思えます。

第20回 はあとふる学会を終えて

第20回 はあとふる学会 学会長
島田病院 事務部 副部長 織屋敦彦

法人設立60周年、そして「はあと&はんすアカデミー」も学会名を「はあとふる学会」と改め、第20回目の記念大会となりました。節目の学会で学会長のバトンが渡ってきました。名誉なことですが、責任の重さに身の引き締まる思いで企画・運営・実施にスタッフと共に取り組みました。

今回の学会のテーマは「Challengeチャレンジ」〜紡ぐ〜NEXT STAGEです。一般的にチャレンジ精神やフロンティアスピリットは、一定の成果による満足と開拓が進むと消滅するとされています。そこでサブテーマに〜紡ぐ〜という言葉をつけました。これは、私自身が大切にしている言葉です。はあとふるグループ職員が日々の業務・ケアの中でおこなってきたチャレンジが一定の成果を生み、その時の精神が消滅しても、それらは確実に紡がれ、また新たなチャレンジとともに次のステージへ繋がるものとの思いからです。

当日は、個々の研究や取組みが、良質のケアの提供という共

通の目的に向かい、複数の人間や組織と協力し合い、紡がれていることが実感できる内容の発表が多くあり、はあとふるグループの原点、進歩と成果、そして問題点を見据えた、将来のはあとふるグループの基盤構築につながる学会になったのではと思います。



学会の最後に学会長より、第21回 はあとふる学会の学会長と副学会長の指名がありました。次ページの「人インタビュー」で決意表明をご紹介します。

第20回はあとふる学会結果表

理事長賞	「へこたれてなんかいられない!〜目指そう☆南河内〜一番の訪問看護ステーション〜」 訪問看護ステーション ハートパークはびきの 杉田 佳子
学会長賞	「電子カルテ導入までの経緯」 島田病院 電子カルテ管理運用委員会 法人事務局 システム課 佐藤 貴志
口演部門	
全賞	「リハ・看護役職者の“ベア”が要!」 これからの回復期リハビリテーション病棟」 八尾はあとふる病院 回復期リハビリテーション病棟 市村 公
銀賞	「止まらない進化し続ける当院訪問リハビリテーション〜設立から現在までの取り組みと今後の展望〜」 八尾はあとふる病院 訪問リハビリテーションチーム 真鍋 阿沙子
Warm Heart賞	「その人らしい最期(人生)を全うするための 温かい看取りケアをめざして」 八尾はあとふる病院 介護療養病棟 望月 由香里
Cool Head賞	「回復期リハビリテーション病棟におけるFIMの活用」 八尾はあとふる病院 回復期リハビリテーション病棟 森 夏野
Beautiful Hands賞	「自助具導入によるQOL向上への取り組み」 八尾はあとふる病院 リハビリテーション部 松山 厚樹
ポスター部門	
最優秀賞	アメリカ海外体験研修に参加して 一歩み出した一歩の先にあったもの〜 島田病院・八尾はあとふる病院 リハビリテーション部 八坂 真妃
Warm Heart賞	東日本大震災の被災地に対するリハビリテーション支援を経験して 八尾はあとふる病院 リハビリテーション部 吉岡 豊城
Cool Head賞	電子カルテ導入後アンケートの結果報告と 今後の運用に関する一考察 島田病院 電子カルテ管理運用委員会 三谷 圭司
Beautiful Hands賞	あなたの口腔ケアは正しいですか? 八尾はあとふる病院 介護療養病棟 藤本 陽香
ベストエッセンス賞	島田病院 リハビリテーション部 青井 弘明 訪問看護ステーション 湯又 満恵



次期学会長と副学会長から 「第21回 はあとふる学会」への思い

学会で受けた刺激を
日々のリハビリテーションケアに繋げる…
そんな学会を作りたい

前学会長の織屋副部長よりこのお話を頂いた時、とても悩みました。思わず「時間を下さい」といって電話を切ってしまいました。歴代学会長のそうそうたる顔ぶれをみると、私なんかに学会長が務まるか？時間にして15分程度であったと思います。いろいろな思いがめまぐるしく頭を駆け巡りました。そんな私の背中を後押ししてくれたのは、仲間存在です。「丸毛副学会長をはじめとする多職種の仲間で力を合わせれば、私たちらしい学会を作っていける」という確信のもと大役を引き受けることを決めました。1回目に参加した学会では、厳しい意見を受け、そこから燃えました。毎年「優秀賞をとってやる！」と継続して発表しました。賞もいただいて、学会長の指名はこれからは指導的な役割を果たせ、という意図もあるのだろうかと思ったりします。一人でも多くのスタッフが学会に参加することで何かを感じとり、学び、手にいれる、それを日々のリハビリテーションケアに繋ぐことができる、そんな学会を作っていきたいと考えています。「私たちらしい学会」の開催に向けて、一步一步、歩んでいきたいと思っています。

次期学会長
八尾はあとふる病院
リハビリテーション部 主任 源 夏野

チームワークを大切に、
沢山の職員が、
心揺さぶられるような学会にしたい

第21回はあとふる学会の副学会長という大役を仰せつかりました、八尾はあとふる病院の丸毛です。座長経験もない私に、このような任務を与えて下さった勇氣に感謝いたします。

八尾はあとふる病院は、まだまだ道半ばの状態、みんなで「すったもんだ」しながらチーム体制を模索しています。まだ、十分な結果は残せていません。しかし将来に向けて、かばい合いでもなく、もたれ合いでもないチームワークの基盤は整ったと感じています。

チームケアの喜びは、いわく言い難いものですが、今回の学会を通して、沢山の職員が胸の内に広がる温もりを、感じたのではないのでしょうか？ 次の学会も、こんな胸を揺さぶるような学会にできるよう努めたいと思います。

次期 源学会長とは「次のテーマは何にする？ いやそれはやめといたほうがええ。」と早速「すったもんだ」が始まっています。こんな私達をサポートしてくれる仲間は、きっとわんさかいると心から信じています。

次期副学会長
八尾はあとふる病院
看護部 課長 丸毛 知子



次期学会長と副学会長による決意表明

東日本大震災の 被災地に対するリハビリテーション支援を経験して

八尾はあとふる病院 リハビリテーション部
教育担当 吉岡 豊城

平成23年3月11日の午後、八尾はあとふる病院の4階で震度3の地震を経験しました。院内でリハビリをされている患者さまの安全を確認した後、外出予定だったので車の助手席に乗り病院を出ました。津波の映像はその車の中で見ました。言葉にならず、ただ ただ映像を見ていたのを覚えています。

自分にできることはないかと思い、それから4ヶ月後の7月、被災した岩手県陸前高田市で日本理学療法士協会が行っているリハビリ支援活動に当院の協力を得て参加させていただきました。

現地入りして、街が丸ごと無くなっている状況を目の前にした時、やはり言葉にならず自分の無力さを痛感しましたが、この地域が復興していくためにリハビリスタッフとして力になれることを考え続けました。

被災者の方々は避難所から仮設住宅へ徐々に移動されている段階でしたが、さまざまな理由で近隣の方々との信頼関係が築けておらず、多くの方が外出する機会を失っていました。外出機会の減少から活動量・身体能力の低下が起こっていたため、地域のコミュニティ形成につながるような住環境調整や自主トレーニング指導、患者・家族教育、集団体操などを実施していきました。

8日間はあっという間に過ぎ、後続班への引き継ぎ業務を終えて帰路に就きました。帰阪した時の大阪の街の色が鮮やかだったこと、高い建物ばかりが立ち並んでいること、行き交う人の多さなどが印象的で、こういった多くの人々の人生があの地震と津波で一瞬にして消えてしまったと考えると、やりきれない気持ちでいっぱいになり、新大阪駅でしばらく立ち尽くしてしまいました。

復興にはまだまだ時間が必要ですが、これからも自分のできる支援を続けたいと思います。



島田病院に 電子カルテが導入されるまでとこれから

島田病院では、これまでもレントゲンやMRIなど電子化を進めてきました。医療の効率性と質の向上、サービスの向上、安全性、医療の透明性の確保などを目的に平成22年10月から段階的に電子カルテの導入を行い、平成23年8月4日(木)より電子カルテシステムの運用を開始いたしました。※電子カルテとは、従来、紙に記載・保存していた診療記録(カルテ)を電子化し、コンピューターによって集中管理するものです。

整形外科に特化した島田病院の特徴を活かしたシステムを作り上げ、各職種の専門領域をつなぐために会議やミーティングを合計229回も行いました。その結果、情報の流れについて共有化する事ができ、業務の見直しを通して人や物の流れを業務改善する事ができました。また、多くのスタッフが電子カルテ未経験という事もあり、運用開始日が迫るにつれ全スタッフが必死に操作を習得しました。

患者さまの診療情報を電子的に共有することができるので、診療に関わるスタッフが患者さまの状態を迅速かつ的確に把握できるようになりました。それぞれの医師がどのような意図を持って指示をしたのかということ各スタッフが正確に把握でき、チーム医療の質向上にもつながります。さらに、手書きによる転記ミスや手書きカルテの誤読などの防止にもなるので、安全性の向上にもつながるのです。

スタッフにアンケートを実施したところ、電子カルテの利点とは?との質問に対し、「カルテをすぐに見る事ができる」「字が読める」など情報共有に関することや「カルテを探す手間がなくなった」「紙が減った」など管理面での効率化が図れたとの意見が多く見られました。全体の約70%のスタッフが電子カルテを導入して大変良い・良いと回答しています。

電子カルテを導入して5ヶ月経過しましたが、まだまだ課題やなすべき事は山積みです。今後は患者さまの意見を聴きながら、待ち時間軽減などのサービスの向上や、私たちの目標とする質の高いケアを効率よく提供していけるよう日々努めてまいります。

電子カルテが導入されたことによって、再来受付機を平成23年12月16日から導入することができました。予約のある患者さまは、今まで総合受付で行っていた受付登録を再来受付機でしていただけます。予約のない方や保険証の確認が必要な患者さまなどについては、従来通り総合受付での受付となりますが、再診受付の迅速化、サービスの向上につながっていく取り組みです。



再来受付機



整形外科での電子カルテ操作研修



スタッフを対象とした電子カルテ操作研修

高度体組成計導入のお知らせ

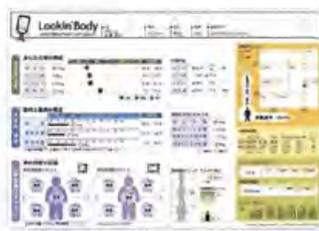
はびきのヴィゴラスでは、体の状態を科学的に把握し、その後のトレーニングをより効率よく行うことを目的に「高度体組成計」を導入しております。

ダイエットや筋肉質になるための体づくりなどに取り組んでいる方にとって、その効果を確認しやすい装置です。是非ご利用ください。



高度体組成計でわかること

- ①体脂肪量
 - ②体脂肪率
 - ③BMI(体格指数)
 - ④部位別(胴体・腕・脚)の筋肉量
腕・脚は左右別に結果が出ますので、左右差比較も可能です
 - ⑤1日の基礎代謝量
 - ⑥1日の摂取エネルギー量の目安
- 測定費用:1回につき500円(税込)
所要時間:10分(測定・結果説明)
※要予約



測定結果用紙



バイオスペース社製「InBody370」

お申し込み・お問い合わせは、島田病院地下1Fはびきのヴィゴラスまで
TEL・FAX/072-953-1007 E-mail:vigorous@heartful-health.or.jp

2011年9月からの行事報告

開催日	イベント名	イベント内容
9月8日(木)	感染対策研修会	アメリカの学会に参加して、病院見学をした当院の感染管理認定看護師が、全職員を対象とした研修会を行いました。クイズなどを取り入れ、楽しく感染対策について学びました。
9月10日(土)	新任考課者研修(基礎編)	主に新任の考課者を対象とした研修です。はあとふるグループの人事制度の基礎を学び、育成面談に必要なスキルを学びました。
9月29日(木)	スポーツ整形外科 リハビリテーション研究会	法人内の療法士やトレーナーが中心となり、研究発表と多職種によるディスカッションを深める場です。専門性への追求が重要なテーマです。
9月30日(金)	リーダーシップ研修	リーダー職を対象とした研修です。職場で率先してリーダーシップを発揮できる職員の育成を目的としています。
10月1日(土)	モチベーションアップ研修	全職員を対象とした研修です。自己のモチベーション、仕事に対するモチベーションアップを目的としています。
10月8-9日(土・日)	リフレッシュアップ研修	新入職者及び新入職者の教育を担当している職員を対象とした1泊研修です。リーダーシップ、メンバーシップを学ぶことを目的としています。
10月16日(日)	第16回大阪病院学会	大阪国際会議場で開催されました。はあとふるグループの職員がヘルスケアサービス向上のために取り組んできた成果を発表を行いました。
11月8日(火)	中途採用入職時研修	今年度に入職した職員を対象としています。はあとふるグループ職員として必要な基本知識を学ぶことを目的としています。
11月11日(金)	介護の日イベント	ご利用者の作品展示や家族介護者教室、介護相談、高齢者体験などを行いました。介護や施設を身近に感じていただけるように開催しました。40名以上の方にご参加いただきました。
11月13日(日)	第20回はあとふる学会	全職員が対象でLICはびきりで開催しました。各職種がヘルスケアサービス向上のために取り組んだ成果を発表しました。
11月14日~25日(月~金)	通所リハビリテーション ケアマネジャーモニター会	通所リハビリテーションの役割と重要性を知っていただく機会として、ケアマネジャーにご来所いただき、リハビリテーションの内容を見学していただきました。
12月17日(土)	コミュニケーション研修	職員が研修や現場で身につけたコミュニケーション技術をスタッフに伝達しました。

はあとふるグループ 使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

はあとふるグループ 理念

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを

知識
Cool Head 心 Warm Heart
Beautiful Hands 技術
で支援します

はあとふるグループの基本方針

1. 「確かな知識と技術」を追求します
2. 「心に届く」を追求します
3. 「安全」を追求します
4. 「信頼でつながるチーム」を追求します



Cafe Infection Control

感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人事務局 感染・安全管理担当
感染管理認定看護師 森下 幸子

QRコードで
簡単アクセス



みんなで「咳エチケット」を守りましょう

厚生省が推奨する「咳エチケット」をご存じでしょうか。インフルエンザだけでなく、日常から「咳エチケット」を行うことで、飛沫感染や空気感染で広がる感染症の拡大リスクを下げることができます。海外においても共通の予防策です。

- ① あなたに咳がある場合には、他の人にうつさないためにマスクを着けましょう。あなたの周囲の人にも教えてあげましょう。
- ② くしゃみや咳をする場合は、手ではなくハンカチやティッシュでしっかりと鼻と口を押さえ、他の人から顔をそむけ、1m以上離れましょう。あなたの周囲の人にも教えてあげましょう。
- ③ 鼻水や痰などが含まれたティッシュは直ぐにゴミ箱へ捨て、あなたは手を洗いましょう。
- ④ 咳やくしゃみで手が汚れた場合は、直ぐに手を洗ってください。



ここで、注意していただきたいのは、使用するマスクは正しく使わなければ効果はありません。

正しいマスクの装着方法

- ① 鼻に密着させ、鼻から顎の下までしっかり覆ってください。自分の顔にあったマスクを選びましょう。
- ② マスクの内側は、あなたの唾液や鼻水、痰によりとても汚れています。マスクを外す時は内側に触れずに外し、ゴミ箱に廃棄して直ぐに手を洗ってください。
- ③ マスクは呼吸や会話により、だんだん湿ってきます。湿ってくると効果が期待できません。もちろん!!一度使用したマスクを二つ折りにしてバッグやポケットに入れるのは、禁止です。時間毎に交換をしてください。



はあとふるグループ

●医療法人(財団)永広会

島田病院 072-953-1001
Eudynamics はびきのヴェイラス 072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

ヘルパーステーション 悠々亭 072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの 072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる 072-999-8126
〒581-0815 大阪府八尾市宮町2-10-22

●社会福祉法人 はあとふる

高齢者生活福祉センター ゆうゆうハウス 072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10